4月17日（金曜日）「ダビデ（8）王の死を悼む」

【新改訳 2017】

IIサムエル記1•1ー27

「彼らは、サウルのため、その子ヨナタンのため、また、主の民のため……いたみ悲しんで泣き、夕方まで断食した。彼らが剣に倒れたからである。」（12節）

「ダビデは……この哀歌を作り……ユダの子らに教えるように命じた。……」（17、18節）

ダビデは恐ろしいほどの戦士であったと同時に、人情にも厚く、また神の秩序には徹底して服従する人でした。

彼はこのゆえにまた、もろく弱いところもありました。確かに強い人間でしたが、やはりふつうの人間でした。この哀歌の中にも感じられます。

時には、自分が少しばかり祝福されると、恩師や先輩たちでさえも競争相手にしたり、誹謗したりすることが多い私たちにとって、何か大切なことを教えられます。

ダビデは、自分の成功や勝利をねたんで殺害しようと、狂気の追撃を繰り返したサウル王を勇士とたたえ、愛されるりっぱな人だと言い、これを子孫に教えようとまで命じているのです。

～祈り～

主よ。神に立てられながらもさばかれなければならなかった人のために、涙を流せるダビデのような人にしてください。